動物考古学Ⅰ

科目ナンバリング　ARC-215
選択　　2単位

植月　　学

1. 授業の概要（ねらい）

動物考古学とは遺跡から出土する動物遺体（貝殻や骨など）をもとに、過去の生活や環境を研究する学問分野です。本講義では様々な動物を取り上げ、人との関わり合いの歴史を紹介します。考古学だけでなく、必要に応じて歴史学や民俗学・民族学、種々の化学分析など、関連する分野の方法や成果についても解説します。

2. 授業の到達目標

動物との関係という新たな視点から歴史を捉え直すことで、現代社会やこれからの社会について考える力を身につける。

3. 成績評価の方法および基準

平常点：中間試験40%、期末試験：60%

4. 教科書・参考文献

参考文献
西本豊弘ほか編　人と動物の日本史　吉川弘文館
設楽博己編　十二支になった動物たちの考古学　新泉社

5. 準備学修の内容

毎回資料を配付しますので、中間、期末試験に向けて復習をしておいてください。

6. その他履修上の注意事項

考古・歴史、生物の両方に関係するテーマを取り上げます。なるべく予備知識がなくても理解できるように進めますが、幅広い関心を持って臨んでください。

7. 授業内容

【第1回】　ガイダンス
【第2回】　骨は語る
【第3回】　イヌ（1）　最古の家畜（旧石器～縄文時代）
【第4回】　イヌ（2）　関係の変化（弥生時代以降）
【第5回】　ネズミとネコ（1）　害獣から探る暮らしの変化
【第6回】　ネズミとネコ（2）　日本史の中のネズミとネコ
【第7回】　ウマ（1）　世界史を動かした動物
【第8回】　ウマ（2）　古墳時代の高級車
【第9回】　ウマ（3）　武士と馬
　　中間試験
【第10回】　ウシ　ミルクの歴史
【第11回】　ブタ（1）　家畜化を探る
【第12回】　ブタ（2）　日本史の中のブタ
【第13回】　狩猟の歴史（1）　イノシシ・シカ
【第14回】　狩猟の歴史（2）　ウサギと小動物
【第15回】　期末試験とふりかえり